

試験範囲外

『2. 私的所有と市場社会』の
「商品交換の原理」への補足

[Ex.2.1] 形式的自由

交換過程の第一の契機としての

参考

自由

1. 誰から命令されたのでもなく、
ただ自分自身の自由意志でのみ、——
 2. 誰に命令するのでもなく、
ただ相手の自由意志を通じてのみ、——
- = ただ互いの合意（=共通意志）を通じてのみ、——
- 交換関係を結ぶ=社会形成する。

参考

逆に、もし自由が不成立だと...

- 例えば奴隷は自由人ではない。
 - 特に商品交換の自由がない。
 - むしろ奴隷自身が商品として交換される。
- 奴隷主の所有物である奴隷が産出したオリーブは奴隷主の所有物である。
↓ それゆえに
- 奴隷主は奴隷からオリーブを買わない。
↓ すなわち
- 商品交換は成立しない。

参考

この自由の形式性

- 実質的に（本当に）自由なのかどうかは、市場の内部ではわからない。
- ひょっとすると会社の業務命令でその従業員が商品を買っているのかもしれない。
- しかし、そうだとすると、それは市場の外部での事情である。

参考